

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	鹿島市立明倫小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・保護者アンケートからは、本校の教育活動に対しておおむね良好な評価を受けている。児童や保護者への対応についても評価が高く、何に対しても「ていねいに」「すばやく」対応する姿勢で教育活動に取り組んでいる成果が出ているものと思われる。TT授業や少人数指導の工夫が保護者に伝わっていない。どのように理解、啓発を求めていくかが今後の課題である。</p> <p>・CS（学校運営協議会）の協力を得て、児童は安全に安心して地域で過ごすことができた。地域の人材を生かした活動として、今年度も面浮きの面づくりに取り組めた。しかし、地域の人材を生かした学習に学年や学級によって偏りが見られたため、年度当初に、担当者と学年担任と連携して計画を立てる必要がある。今後も、児童に地域の文化や良さを理解させるために、地域人材を有効に活用していきたい。</p> <p>・気になる子、家庭環境の不安な子などに対して、職員は児童理解を深め、組織的に対応するように努力した。個別に対応が必要なケースが徐々に増えてきているので、SCやSSWも交えたケース会議を行い、鹿島市の福祉課や民生委員とも連携して対応していきたい。</p> <p>・学校運営協議会員による外部評価では、具体的な説明を行わなかったためどのように評価した方がよいか戸惑われた方があった。協議会の中で目標、方策、成果について十分な説明をしていく必要がある。</p>
---------------	---

2 学校教育目標	「いい顔 いい声 いい動き」
----------	----------------

3 本年度の重点目標	<p>気づき・動く ～気づき 行動（活動）する 明倫っ子の育成～</p> <p>①学級経営の充実 ②確かな学力の向上 ③豊かな心の育成 ④特別支援教育の充実 ⑤ふるさと大好きっ子の育成 ⑥家庭・地域との連携</p>
------------	---

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランについて共通理解するとともに、授業研究会やスキルアップ研修等で取組の促進を図る。
	○基礎的、基本的な知識・技能の定着に向けた授業の実践	○自分の考えを書くことができる児童を80%以上にする。	・「授業づくり1・2・3Vol.2」を踏まえ、書く活動を設定する。	A	・児童アンケートでは、既習事項を使って問題を解く割合が83%から88%に増加した。見通しやふりかえりの段階で既習事項を取り扱う事で、本時とのつながりが明確になり、理解が深まった。	A	・全職員による研究授業がすばらしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○心のアンケートで肯定的な回答をした児童を80%以上にする。	・道徳教育の充実をはかり、「ふれあい道徳」を授業参観日に行う。 ・心のアンケートの実施。	A	・心のアンケートをもとに個々の児童と面談して、児童の困り感に対応したこと、心のアンケートで肯定的に回答した児童が、90%程度に伸びた。	A	・これからも子どもたちが自己肯定感を高めていくように一人ひとりを見ていってほしい。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○生活アンケートで「いじめられた」と感じる子供を10%以下にする。	・QUテストを実施し、機能的活用を行う。 ・学校全体で対応できる体制を作る。	B	・生活アンケートで「いじめられた」と感じる児童は、10%以下だった。 ・事案が発生した時は、複数の教員やチームで対応できた。	A	・担任だけでなく、チームで対応できることはとても良い。
	○仲間とのつながりを深める特別活動の充実	○仲間とつながり協力できる児童を80%以上にする。	・学級があたたかい居場所となるような取り組みの工夫及び実践の紹介。 ・たてわり活動による異学年交流の促進。 ・行事において、児童が互いに協力しながら活動し、仲間とのつながりを深められる場の設定。	A	・2学期の児童アンケートで「友達と仲良くしましたか」の項目に肯定的な回答をした児童が87%だった。 ・たてわり活動の機会が十分に確保でき、遊びや読書など様々な形で異学年交流ができた。 ・行事では、活動の制限があるからこそ、より工夫したり協力し合ったりしてやりとげようとする姿が見られた。 ・学級があたたかい居場所となるよう、各学級で児童の実態に応じた様々な取り組みの工夫を行った。	A	・誰にでも苦手な人はいる。そういう人との接し方も教えてほしい。
	◎夢や希望を持ち、その実現に向けて努力しようとするための教育活動	◎自分の夢や目標に向かって努力している児童を70%以上にする。	・キャリアパスポートを活用し、時々生活振り返らせる。 ・地域の人・物・事を活用した体験活動を設定する。	A	・2学期の児童アンケートで「目標を立ててがんばりましたか」の項目に肯定的な回答をした児童が84%だった。 ・コロナ禍においても、工夫をしながら地域人材を活用した体験活動を行うことができた。	A	・コロナ禍でもできるだけ体験活動を行ってほしい。
●健康・体づくり	次の中から1つ以上を選択 ●「運動習慣の改善や定着化」 ●「望ましい生活習慣の形成」	○授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒70%以上にする。  ○「健康には生活習慣を整えることが大切である」と考える児童70%以上にする。	・運動に親しむことで体力向上が図れるような魅力的な体育授業の実践をめざす。  ・食育や保健体育、特活等の学習を通して生活習慣を整えることの大切さの理解と啓発を図る。 ・生活習慣に関するアンケートの実施	B	・高学年でアンケートを実施したところ、「授業以外で運動や、スポーツを行う時間が1週間で420分以上」と答えた児童は67%であった。また、「健康には生活習慣を整えることが大切である」と答えた児童は、100%であった。 ・今年度は体育の外部講師の招聘や、スポーツ委員会のイベント開催などを通して、スポーツを楽しむ経験を積ませることができた。しかし、コロナの流行で、毎日昼休みは本を読んでも過ごす児童もおり、学級での声かけが足りない部分もあった。	B	・給食の残りを出さないという意識を子どもたちに持ってもらいたい。 ・コロナ禍の厳しい環境の中でできる限りのことはされている。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日(毎週金曜日18時)を設定し、時間外勤務の削減を図る。 ・「時間外勤務時間目標30時間」の月を年間3回設定する。	B	・コロナ対策による行事の内容の変更はあったものの、これまでの経験を生かしてチームで対応することができてきた。それに伴い、業務の効率化を図ることができるようになってきた。 ・次年度は、さらに時間外勤務時間の月別目標を設定し、職員の意識を高めていきたい。	B	・子どもと向き合う時間を増やすために、引き続き先生方の時間外勤務を削減するように努めてほしい。 ・先生方の健康あつての学校運営だと思えます。心と身体を休めてください。
	○元氣いっぱいプロジェクトの実施により校務等の効率化の促進	○3つの施策(教師の専門性を高める、子どもと向き合う時間の確保、働きやすい環境づくり)により業務を改善し、教職員の意識改革を図る。	・職員意見を聞く場を設定し、職場環境の充実を子どもとのゆとりある学校生活を送ることにつなげる。 ・学校運営協議会との意見交換。	B	・年間を通して、児童と向き合う時間を確保してきた。次年度もゆとりをもって児童と接することができるように取り組んでいきたい。 ・校舍改築は引越しを伴う大きな行事ではあるが、保護者の協力もあり無事に管理棟部分を終えることができた。	B	・今年はコロナ禍で学習の形が大きく変わったと思います。これからも変化に柔軟に対応して行ってください。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
				○特別な支援を要する児童への開発的生徒指導の充実	○支援を必要とする児童への支援体制の充実	○支援を要する児童への対応の仕方を学び、生徒指導に活かした教員の割合を80%にする。	・職員研修の充実や専門機関との連携 ・児童の実態把握と、すみやかな対応(ABC分析シートの活用、保護者面談やケース会議の開催)
○開かれた学校づくり	○外部評価の結果を公表し、改善に向けた取組み	○地域人材を活用した体験的活動を各学年、年間1回は実践をする。	・学校運営協議会での評価内容の検討・改善を行う。 ・地域へ学校便りの配布 ・地域人材を活用した教育活動	B	・コミュニティスクール通信の発行を6回発行できた。次年度もさらに地域への教育活動の啓発に努めていきたい。 ・地域人材を活用した教育活動をほぼ達成できたが、1年生だけは、予定されていた老人会との体験活動がコロナ禍による学習スタイルの見直しのため実現できなかった。	A	・コロナでいろいろな制限がある中、良く工夫してやっておられると思う。 ・コロナでいろいろ大変だったと思います。来年度に向けて頑張ってください。

5 総合評価・次年度への展望	<p>●…果共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育</p> <p>・今年度はコロナ禍による学習スタイルの変更を余儀なくされたが、多くの項目について目標を達成できた。しかし、本校の課題と言える児童の実態の2極化を是正していく必要がある。学力向上においては、学力向上コーディネーターや研究主任を中心に、本校の課題を的確に見極め、全職員で各活動や振り返り活動についての取り組みができた。心の教育においては、生徒指導主任や教育相談担当、特別支援担当を中心として、支援を要する児童について対応の仕方を学ぶことができ、各学級での対応に生かすことができた。健康・体づくりにおいては、コロナ禍における学習スタイルの変更の影響が大きく、運動習慣の定着とまではいかなかったが、各種行事を通して運動に親しむ機会を増やした。業務改善、働き方改革については、さらなる重点的な取り組みや職員の意識改革も必要である。開かれた学校づくりでは、保護者や地域への啓発活動ができてきている。次年度もさらに継続していく必要がある。</p>
----------------	---